

## 令和2年度 岩手県立総合教育センター運営協議会・会議の概要

### 1 日時

令和3年2月26日（金） 13:30～15:30

### 2 場所

総合教育センター 第1研修室

### 3 出席委員

近藤 澄江 委員、太田 優子 委員、清水 利幸 委員、坂水 かよ 委員、山田 道宏 委員  
佐藤 勝 委員、鈴木 久米男 委員、市川 尚 委員、藤原 忠雄 委員、恒川 かおり委員  
(以上10名)

### 4 出席者

岩井 昭 所長、佐々木 誠 総務部長、吉田 竜二郎 研修部長、佐々木 寛 支援指導部長、  
平賀 信二 学校教育参与ほか 各担当総括等の職員

～ 以下、会議の概要 ～

※ 運営協議会委員の今任期最初の会議であったことから(昨年度は全国の学校一斉休業の関係で急きょ開催を取り止めた)、協議に入るに先立ち、会長に藤原忠雄委員、副会長に近藤澄江委員を選出し、藤原会長の議事進行により協議が行われた。

### 5 協議事項

- (1) 令和2年度総合教育センターの事業等について
- (2) いわて県民計画(2019～2028)
  - ・「学びの改革プロジェクト」について
- (3) 新型コロナウイルス感染症対策等について
  - ・研修講座に係る感染症対策について
  - ・宿泊施設(明窓館)の段階的廃止について
- (4) 令和3年度の新たな取組みについて
  - ・教育センターICT環境整備 ・遠隔教育ネットワークの構築
  - ・ICTを活用した研修の充実 ・ICTを活用した授業改善等に関する研究の充実
- (5) その他

## ○ 令和2年度総合教育センター事業について

[質問]

・総合教育センターの要請研修の中で、特別支援学校の件数が109件となっているが、その研修内容はどのようなものか。

[回答]

・特別支援学校の要請に応じたものとしては、情報教育関連では、やはりICTについて、Teams、Formsの説明をぜひ学校に来てお願いしたいというものがあつた。

・特別支援学校のセンター的機能に関わつて、検査結果の読み取りについて、職員みんなで研修したいという要請に応じたものもあつた。

[質問]

・今年度の研修の中で、学校種以外の「その他」の研修人数が1,961人とあるが、その内容にはどのようなものがあるのか。

(会議後の補足説明)

学校種以外の「その他」の研修人数には、情報モラル研修等での児童生徒の参加人数も含めている。

・また、沿岸部での支援事業の教育相談について、震災から10年経過しようとしている中で、内容には変化があるか。

[回答]

・学校種に入らない研修には、警察学校の職員に向けて行つたものや、今年度はICTに関わつて、教育事務所等で指導主事の研修に出向いたものなどがある。

・沿岸部での教育相談の相談内容については、内陸部同様に家庭環境の問題等も含めて複合的にあるようで、沿岸部の全地区を網羅できていないので、全体的な傾向までの把握は難しい。

## ○ いわて県民計画（2019～2028）「学びの改革プロジェクト」について

[説明]

・昨年度スタートした「いわて県民計画（2019～2028）」では、教員の一層の資質向上等を図るため、総合教育センターを機能強化し、本県の教育課題の解決につなげる先進的・実践的な研究の充実や計画的・効果的な研修の充実に取組むこととされている。

・その具体的な取組みとして、「学びの改革プロジェクト」を立ち上げ、県としてはGIGAスクールで学校のICT機器整備を加速させており、また、教育センターも加わつて、岩大・県立大と共同実証研究により、ICTを活用した授業改善等の充実を図ることとしている。

## ○ 新型コロナウイルス感染症対策等について

[説明]

◇研修講座に係る感染症対策

・今年度の総合教育センターの研修講座は、昨年2月末からの全国の学校一斉休業や4月の緊急事態宣言という状況の中で、新型コロナウイルス感染症の感染予防を徹

底し、基本研修についてはどうにか中止せずに行えたが、特別研修や希望研修は中止したもの、規模を縮小したものがあった。

- ・感染症予防対策としては、研修講座受講者の検温、マスク着用、手洗い、咳エチケットの励行、研修会場等で「3密」回避など、受講者の協力の下出来得る対策を講じた。
- ・また、ICTを活用した研修や、受講者の受付時の混雑を回避するため、研修室にそれぞれ着席したうえで、配布されたQRコードを受講者のスマートフォンで読み込んで出席確認をするなどの取組みも行った。

◇宿泊施設（明窓館）の段階的廃止

- ・「明窓館」は、新型コロナウイルス感染状況の行方が見通せない中では、激減した利用者数の回復が見込まないことや、老朽化していく中で多額の修繕経費等が見込まれることなどから、令和2年度末をもって宿泊機能を「廃止」し、令和3年度は昼食のみの提供を行い、令和3年度末をもって完全に「閉館」することとしたところである。

## ○ 令和3年度の新たな取組みについて

〔説明〕

- ・新型コロナウイルス感染症による臨時休校等の緊急事態におけるオンライン学習など学びの保障や、ICT機器を活用した授業改善の推進のため、総合教育センターのICT環境整備を進めている。
- ・予定では、研修用タブレット 165 台、無線LAN環境整備 15 室、大型提示装置等 5 台、研修専用回線1回線など、タブレットの一部を除いて年度内に整備し、令和3年度から学校と同じ環境下での研修を通じてICT機器を活用した指導力の向上を図っていく。
- ・また、当センターでは、県内の教員によるICTを活用した授業を推進するため、今後5年間ですべての教員が受講することを目指して、研修講座全体あるいは研修講座の一部でICTを活用した授業方法等に関する講義・演習を行う研修を「ICT活用研修」と位置付けて実施することを計画している。

## ◎ 各委員からの意見・提言等

◇ ICTの活用については一つのツールである。オンライン型授業と対面型授業にはそれぞれの良さがあるので、メリット・デメリットを整理しながら「令和の岩手型教育」ということに**関して**取り組んでもらいたい。

◇ 岩手県は市町村立学校の数が圧倒的に多く、ICTの活用については遅れている。  
市町村立学校へのフォローのあり方で、へき地校を含めて小規模校をオンラインで結び、岩手ならではの指導のあり方・学びの質の向上といったことなどを解明してほしいし、現場の先生方が取り残されないようにするためには、校長先生方が積極的に取り組む必要があるので、校長先生方の研修について工夫していただきたい。

◇ ICT活用・オンラインの活用によって、地域間格差（交通面、財政面での問題等）の解消にいい面があると感じる。

- ◇ 教育も変化してきて、ICT化というのが当たり前になってきている。コロナ禍での教育もオンライン授業が当たり前になっているので、子ども達になるべく早い時期から慣れるという教育と、保護者と学校の関わりについてもICTを使う等新たな形もいいと思っている。
- ◇ センターでの研修についても研修内容によってはオンラインと対面を組み合わせながら行うなど、可能性を是非とも探っていただきたい。また「見える化」について非常に重視しているとのことだったので、実際に研修に参加された方々が研修後にどのように活用したかも含めて発信していただくと有難い。
- ◇ コロナ禍で、幼稚園や保育園等で子ども達に丁寧に寄り添う指導の中にICTをどのように取り入れていくことが出来るかが課題である。その点についても、様々な例を見せていただきご指導いただきたいと思う。
- ◇ 今年度、コロナ禍にあって全国ではICTをどのように活用しているかの調査があったが、各県ではかなり活用されている様子が見られる。岩手県で回答している地域を見ると、休校期間が短かったことも関係してか、他県より進んでいない印象がある。実際にICTの研修を受けても先生方に意識の差があり、実際に授業や校務に活用するかということが大事なので、私たち教員が意識を持って臨むことが必要だと思うので、今後組織の中でも話をしていきたい。
- ◇ 6年ぐらい前から、特別支援学校の高等部の生徒に一人1台のタブレットが配置され実践に取り組んでいる。実践研究も地道に積み重ねてきているが、なお一層充実させていきたいと思うので、今後ご協力いただきたい。
- ◇ コロナ禍での研修の実施についていろいろなところで悩みながら実施している。今後、講師派遣型の研修とICTを活用した研修の実施について精査する相談が出来れば、今後の研修に活かせると思っている。
- ◇ 教育センターには豊富な人材がいるので、今は必要としていないことであっても先行研究を行い、役に立つときのための準備をしてほしい。
- ◇ 教育環境がめまぐるしく変化していることで、先生方に求められるスキルや知識が多様化してきているので、先生方のメンタルヘルスに関しても考慮してほしい。
- ◇ 特別支援教育の充実のために、若手の人材育成も含めてもっと充実させるための手立てをお願いしたい。また、各特別支援学校の研修機会を充実させるという点が課題であるので、研修指導主事の方々や指導主事の方々の中で障がいについて専門的に担当できる先生方が配置されることにより、内々から研修意欲が高められればいいと願っている。
- ◇ センター発表会で高校の参加者が少ないということが課題であると思っている。普段の授業改善に非常に有効だと思うので、忙しい時期ではあると思うが参加を呼びかけていきたい。
- ◇ 大学とセンターの関わり・連携をより密にすることで、教育の質の向上・子ども達の教育の高まり・学力の向上に結びつくと思うので是非実現したい。